

## 京都とイノベーション

学長 高見 茂

みなさん、こんにちは。学長講話を対面でできるのは四年ぶりですかね。私が学長になりました年の四月に学長講話をやり、その年末からコロナが急激に広がりまして対面の授業等々ができなくなりました。ですから、この講堂でたくさんの人に入っていたいただいて、密の状態でこういう講話をするってことが、やっぱり難しくなったということ、オンデマンド型の学長講話で対応させていただくということがずっと続いていたわけですけれども、やっと何とかコロナも下火になってきましたので、対面でお話をさせていただくことができるようになりました。

今日はどういうテーマをやるかというところ、「京都とイノベーション」ということで、宗教的な話もちよつとは出てきますけれども、親鸞の教え云々ということとは直接には関わりのないことかも知れませんが、京都という町を、より深く歴史的に学んでいた、そ

して愛着を持っていただいて、できれば若い人たちに、この京都の地に定住、定着してもらって、地域の振興を担っていただきたい気持ちでこのテーマを選びました。確かに京都というのは、だいたい人口の十人に一人が学生さんですよ。四年とか、あるいは大学院修士課程二年を修了すれば、自分の地元とかあるいは関東の方へ出ていってしまうと、結果的に六〇%ぐらいが関東の方へ就職してしまうという話もありますね。ですから流動人口としての部分はかなり大きな位置を占めていて、今後この町の活力を維持しようと思えば、どうしても若い人たちに、この地域で就職していただき、定住していただき、そして家庭を築いていただくということをしないと、自治体運営がかなり厳しくなると京都府も京都市も言っておるわけです。それを考えますと、みなさんにまず京都という町を理解していただく、これが大事なことじゃないかなと思います。それで今日は「京都とイノベーション」という題で少し話をさせていただきます。

平安京の時代の話から今日は始めたいと思いますけれども、京都の歴史は非常に古いですね。非常に古いです。嵯峨野の方に大沢池ってありますよね。この大沢池の附近から数百年前の旧石器が出てきています。ですから、これぐらい古い時代から京都の町ってというのは人が定住して住んでいたのですが、現実に歴史が動くのは七九四年の平安京遷都、桓武

天皇が遷都の詔を出されてここに平安京を開かれた、ここから都としての京都の歴史が始まるのです。で、ここに都が置かれる前は、やっぱり帰化人の有力者としての秦氏とかがですね、この辺に住んでおりました。で、松尾大社っていうのがありますけれども、あれなんかは秦氏の信仰していた神社なのです。その秦氏が南都にいた天皇を平安京へ、すなわち北の方へ来てくださいと招聘したという話もあるわけですね。七九四年に平安京遷都、これ、歴史の年表を覚える時に、私も高校時代にどう覚えたのか思い出しましたが、七九四年平安京遷都、坊主が「なくよ（794）」と覚えめました。奈良の坊主が泣くよ。奈良から北へ都が移動したから、坊主が泣くよ、で七九四年と覚えたということですね。

さて桓武天皇は、怨霊に対する怯え方が異常であったと言われといます。この平安京に都を造成される前に、長岡京という都がありましたよね。この都は十年も続かなかった。その長岡京でいろんな異変が起こったために、別の場所へ行こうということになった。で、怨霊をどう抑えるかということを桓武天皇はいろいろ考えたのですよ。そこで平安京の周囲に結界を張り巡らせた訳です。結界は霊的なバリアです。陰陽師に安倍清明っていう人がおりましたけれども、野村萬斎さんが主演した映画もありましたし、安倍晴明を主人公にした小説もあります。桓武天皇が怨霊を恐れた理由は、他戸親王、井上内親王の二

人に、光仁天皇の暗殺の嫌疑をかけた。光仁天皇は桓武天皇の父君でありますけれども、父君への暗殺の嫌疑をかけ、それから同父母弟の早良親王に、藤原種継、この人は長岡京を整備する責任者だったので、この人物の暗殺の首謀者としての嫌疑をかけたのですね。南都、奈良の方人々の中には、なぜ北の方に都を移さねばならないのか、南都でも良いじゃないかという勢力もあつたわけです。それで遷都をどんどん進める種継を殺せということになって、何者かによって、遷都の責任者だつた藤原種継が暗殺された。その責めを実の弟の早良親王に押し付けたという事件があつたわけです。そしてその後長岡京の都に遷都したのですが、その周辺でいろんな怪奇現象が起つた。まず、皇太子の安殿親王、後の嵯峨天皇ですが、病氣になつた。その原因は占いによると、早良親王の怨霊のせいだという結論が出てきました。ここに系図が書いてありますけれども、高野新笠という光仁天皇のお后の一人の名前があります。いわゆる桓武天皇と早良親王のお母さんですが、この人が亡くなる。続いて、藤原旅子という桓武天皇の別のお后が亡くなる。それから藤原乙牟漏というお后の一人も亡くなる。相次いで亡くなつて居るのです。さらに安殿親王、のちの平城天皇ですね、この方も病氣になつた。相次いでこういう不幸が生じた。この原因は、罪を着せられて亡くなつた早良親王の怨霊が崇つて居るのだという結論

とされました。つまり、他戸親王、井上内親王、早良親王と、桓武天皇が次々に謀殺・抹殺した人たちの怨霊が取り憑いて、お母さんの高野新笠も亡くなったという訳です。高野新笠は帰化人の末裔なのです。日本へ亡命してきた朝鮮半島の王朝の末裔の方で、上皇陛下が韓国との絆を感じると仰ったのは、高野新笠が朝鮮半島から来られた帰化人の末裔の方がお后だったという事と関連しているのです。桓武天皇にとっては大切な方々が相次いで病気になるれたり、亡くなられたりするのは、これはもう怨霊の祟りであるから、都を替えようということになった。で、あちらこちら都の候補地を探索されたのです。

その結果、山背国葛野郡宇太村、葛野という地名、覚えありませんか。その交差点は葛野大路ですね。だから私たちの大学のある場所、いわゆる今の名前に連なる名前が平安京遷都の時代からあったということなのです。だから私たちの大学は非常に由緒ある場所に位置しているのです。だから葛野という名前は、千年以上もずっと続いているということですから、私たちの大学は歴史的に評価をされていると言いますか、有名と言いますか、名が残っていると存在しているのです。

選ばれた理由は何か。四神相応の地という事なのです。当時の先端科学だったと思うんですが、古より中国に伝わる占いの一種「風水」、これを当時の人たちは意思決定の基盤

にしていた訳です。いわゆる「風水」は、中国とか韓国とか台湾とか香港で良く聞きますが、新しい都の造成にこの風水を活用したのです。香港とか台湾とか、それから京都駅の駅前ビルには、ちよつと複雑な空間を空けたような形になっている部分があります。あれは風水に照らしてみたら、気が通るところを遮ってはいけないという思想があつて、香港では、高いビルの真ん中に穴空けたビルが存在しているという話も納得できるので、ね。で、当時の先端科学の風水を活用したことで、ここが一番風水の理に適っている、というわけでこの地にしたということなのです。

四神相応つていうのは、東西南北の四方を神で守られた土地のことを言います。北に玄武、南に朱雀、東に青龍、西に白虎という、あの高松塚古墳つて聞いたことある人はどれくらいおられますか？ 歴史で習わなかった？ 高松塚古墳つて。あそこに四方に四つの神が絵で描いてあつた。これは方角の守り神つていうことになるわけです。で、どうも平安京の候補になつた葛野郡の宇太村の地つていうのは、これにピツタシだったようです。北に玄武がおり、南に朱雀、東に青龍、西に白虎がおるといふ、神々がちゃんと配置されている土地にピシツと合つていふこと、ここを新都としたものと考えられるのです。

ところが、この風水の考え方としては中国流と日本流があると言われており、中国とか韓国における風水の四神相応というのは、背後に山、前方に海、湖沼、河川、水が配置されているいわゆる「背山臨水」、すなわち、後ろに山があり、前に水があると、こういう土地を左右から砂（さ）と呼ばれる丘陵、低い山で囲んでいる。後ろの山は高いけど、南に行くほどずっと下がっているような、こういう地形が非常に良いということで、これを「蔵風聚水」、風を蓄え水を集める形態であり、これが風水から見て吉相の土地柄だと当時言われておりました。それを元に平安京の新しい都を位置づけたのです。これは怨霊が出て自分の身内がどんどん死ぬ、おかしな怪奇現象が生じているから、絶対そういうことを防ぐ、神によって守ってもらう土地を選ぶということで、平安京を作ったという訳です。中国や韓国における風水の四神相応というのは、北に玄武、これ高い山ですね。それから東に青龍、龍がいて、少し低い山があり、西の方は白虎というふうな位置づけで、もうちょっと低い砂と呼ばれる山がある。前の方に川が流れています。この場合では川が流れていますけれども、こういうものに囲まれた地に持ってきたら安全で、魔物を防ぐことができますという発想で、都をここに落ち着けたということなのです。

平安京に中国・韓国流の四神相応を当てはめてみますと、北の方はずっと丹波の方に繋

がる高い山々がある。東の方は東山つてありますよ、西の方は西山があります。じゃあ、前面、南の方にある湖とか川とかいうのはあるのかということですが、当時の平安京の候補地には、ここに巨椋池という池、大きな池があったのです。今はもうなくなっています。昭和十六年ぐらいに完全になくなりましたけど、平安京のある前面に巨椋池というすごく大きな池がありました。ということ、中国、韓国で言うところの四神相応にピッタリ当てはまっている。当時の人々はそう考え、ここに都を持ってきたんですね。じゃあ、韓国のソウルはどうかというと、やっぱりそうなっているんですね。北漢山という北の方に非常に高い山々があり、東と西の方にこれよりは低い山があり、そしてここに中心地があつて、ソウルがここに開かれておつて、前は水に当たるのは大きな川で、ソウルには漢江という川がありますね。だから、ここもその条件に当てはまっているということになる。じゃあ、中国の長安はどうかと見てみますと、どうも長安は、その条件に当てはまっていないのです。だから都としてどれだけ続いたか、あまり長く続かなかつたのかもしれない。四神相応の地は、日本では、山川道澤説、日本独自で理論化されたような風水があるらしくて、現在ではこちらが主流になっているようです。玄武つていうのは、北の方にある高い丘とか山、青龍つていうのは川の流れてつていう考え方。西の方は大



きな道、いわゆる街道が存在しているかどうか。で、南の方はやっぱり水ですね。湖沼とここに書いてありますけど。ですから、東は流水、西は大きな道、南は湖沼、北は丘陵で、これが神としては、青龍、白虎、朱雀、玄武、これを表すものが周りに存在しているという条件で、中国流と比べると、ちょっとこの流水とか、大道とかが違うのですけども、こういう条件の整っていると、風水的に見て、安定した地であると考えているのではないかと。で、日本流の山川道澤説で言うと、北に玄武、南に朱雀、東に青龍、西に白虎という神々が配され、地形上のシンボルとして、北の玄武は大きな岩、南の朱雀は大池（湖）、東の青龍は大きな川、西の白虎は大きな道、これがシンボリックなものであるというふうに言われており、これを京都の地勢に照合すると、さっきの蔵風聚水の考え方も京都はピッタリ当てはまっていますよね。丹波の方へ高い山々が連なり、東山、西山があり、南の方にはいわゆる巨椋池というでっかい湖があったということですから、全部当てはまっている。それをさらに日本で発達した山川道澤説に当てはめてみますと、京都の地勢に照合すると、北、玄武という神になぞらえるものとして、北の方に船岡山という丘陵地があること知ってらっしゃる方どれくらいおられますか？ ありますね。京都に船岡山ってありますね。あれがそうだっていうわけです。それから南は巨椋池。これは蔵風聚

水の考え方と一致していますけど、巨椋池が昔あったということを聞いたことがある人はどれくらいいますか？ 知っている人？ 今あの近鉄京都線、私は通勤で使いますが、近鉄の京都線に小倉って駅ありません？ あれはその名残です。昭和十六年に干拓してしまつて今はもうありません。それから東の青龍って何？ 鴨川って川があるじゃないですか。そして西の白虎は山陰道、いわゆる山陰地方に抜ける街道があつたと、こういうふうに使われております。

さあ、これで見てもらつたら地図がちよつと小さくて分かりませんが、北の方には、ここに船岡山、日本流で言えば船岡山が玄武で、中国・韓国流で言つたら北の方の険しい山々が玄武に当たると。それから東山の方に砂というものがあるから、中国・韓国流で言うところにはちゃんと条件に当てはまり、西の方、西山がこれだけしっかりしたものがあるということ、中国・韓国流では条件に当たっていると。日本流で言うたら、船岡山がここにあり、そしてここから山陰街道がずっと連なつていて、そしてここに鴨川が流れていくっていう、いわゆる必要な条件はここで揃つていて、ここに巨椋池っていうのは、かなり大きいですよ。湖みたいな池が昔あつたということですから、条件がだいたい整つていてと考えられます。「背山臨水」「蔵風聚水」っていう考え方、いわゆる中国・韓国流

に当てはめてみると、東山三十六峰、北の方の山よりは低い砂が広がっていると。それから西山は東山の方から見たらこういう感じですよと連なっていて、今は干拓して農地になっていますけど、巨椋池の干拓地ってこんな感じで今は存在しているという話になります。

山川道澤説で言いますと、これが北の方にある船岡山、これが日本流の風水で言えば玄武になる。それからこちらは鴨川沿いですね。夏になったらお店が出て、納涼のための床ですね、これが京都では見られるということですよ。そして巨椋池は現在見ていただきますと、ここに近鉄京都線が通っていて、近鉄京都線はここに繋がっていますから、走っている真ん中が昔は巨椋池だったということになるわけです。ものすごく大きいですね。だからこれが朱雀に当たるやつ。で、山陰道は冬になると、こういう道ですけれども、山陰地方に繋がっている道であるということになります。

現代にもね、四神の応用例、その思想がどんなところに残っているかというのと、大相撲の土俵上にある四つの色分けされた房は、元来方屋の屋根を支えた柱です。四つの柱の名残であり四神を表しているのです。青房とか白房とか赤房とか黒房とか、言いますよね、この角のどこ。ここにそれを表す神様が存在している、土俵の安全を神によって守つても

らっている。これは、白虎であり玄武であり青いのは青龍、それから赤が朱雀。こういう考え方になっている訳です。それから、これも意外でしたけどね、ちらし寿司もそうなのです。少なくとも四色の具材で、四神または四季、五色の具材で宇宙を表している。だから、単なるお寿司って言っても、やはりこの風水の思想と言いますか、五行思想と言いますか、こういうものがこの中にも表れている、こういうふう理解されている訳であります。

さあ、そうしたら江戸、家康は江戸を整備しました。江戸時代、徳川幕藩体制が始まる前に、三河の方から浜松、いわゆる駿河の方から関東の方へ家康は行ったわけでありますが、ここでどういう町づくりをしたのか。江戸湾というのが大きな水に関わるものであり、白虎、道は東海道が東の方へ行っており、青龍にあたる川は、東京には平川って川があったと思うのですが、それが青龍を表しており、北の方の大きな山は富士山だということになっているのですが、この方位を見てください。相当ずれていますよね。方位がズれているよね。ズれているけども、江戸も一応発想としては風水に基づいて作っているとされています。

じゃあ、日本の他の都と比較してみてもどうかと言いますと、一番初めに出来たのは飛鳥

浄御原宮という、飛鳥時代の都はこの辺にあった。それから藤原京もここにあった。藤原京は北の方に高い山はない、南の方に湖もあります。だから条件は整ってない。平城京はどうだったか。『日本書紀』の中にはね、風水で選んだって書いてあるのですが、ここは北の方に低い山があり、こっちにも山がないことはない、こっちにも生駒の山がないこともない、でも決定的に水がないですね。ですから長くはやっぱり続かなかった。そういう点で見ると、長岡京はここで、平安京はこちですから、長岡京よりはより良い条件、北の方の山、西の方の山、東の方の山、東に川があり、南に巨椋池があるという点では、非常に平安京は条件に恵まれていたと言えるでしょう。これ、山科のところも小さな都を作ったらダメなことではない感じ、がしますけれども、やっぱり京の都が千年続いたということは、私は別に風水を信じている訳ではないですが、ひよっとした「風水」の効果があつたのかも知れません。

みなさん、今、日本の首都はどこかご存知ですか。どこですか。日本の首都はどこですか。東京。はい。みんな東京だと思ってるよね。でも、実際は東京じゃなくて、法制度的にはまだ京都なんです。これ案外みんな知らんでしょう。これはね、正式には天皇が遷都の詔をしないと遷都できない。明治天皇が東京へ行ったり京都に帰ってきたりして、最

初は武士が反乱したりおかしくなったらダメなので行ったり来たりしていたのですが、結局最終的には東京の方ですっとお住まいになったのですが、その間に遷都の詔は未だにやっていない。だから京都の人たちは、まだ京都が首都だと言っている人がいるのです。少なくとも政治は東京、経済も東京の方へどんどん集約されていますが、昔は経済は大阪が中心だった。こうした中で、京都の人は未だに京都は都だと思っっている人も多いのです。だから何か一つでも取り戻したいという想いをずっと持ち続けておられたのです。この四月から文化庁が京都に移転して来ましたね。あれもやっぱり京都の人たちの熱い思いですよ。都はまだ京都にあるのだという想いが、文化庁の京都移転を推進したのかも知れません。

さて「風水」による結界に加えて、平安京の周囲四箇所にあった「磐座（いわくら）」、これは古代の人々が神に祈りを捧げた巨石、これを掘り起こして「一切経」という悪鬼を退散させるお経をその下に埋め込むということをやったという記録が残っております。で、天照大神の素戔嗚尊を平安京の周囲に祀った。京都の町の中の地名で、大將軍というのがありますね。そういう名前けっこうあっちこっちにありますね。これはいわゆる素戔嗚尊を祀っているところで、北の方の大將軍神社、東の大將軍神社、それから南の大將軍

神社、これは藤森神社で伏見の方にあります。それから大將軍八神社、これは上京区の方にありますが、東西南北全部に大將軍神社を配置している。

で、鬼門対策として、狸谷不動尊とか、上賀茂神社（賀茂別雷神社）、それから下鴨神社（賀茂御祖神社）、上御霊神社、比叡山の延曆寺。だから比叡山っていうのは方角から言うと北東の方になりますから、ここもやっぱりお寺を作って変なものが入って来ないように防ぐことをやったということです。

鬼門って聞いたことある人どのくらいいますか？ はい、鬼門にお便所作ったらダメだとか言われていますよね。で、鬼門の方へ引越したらダメだという話が、迷信みたいに使われていますが、学生時代、私は京阪電車で京橋から出町柳まで、前の職場もそのルートで通っていたのですけども、京阪電車の沿線は土地が安かった。人口が増えていた時代、高度経済成長していた時代、みんな郊外へ郊外へと住宅地を求めて移転して行った。ところが京阪電車の沿線に楠葉にローズタウンとかいっばい住宅地作ってもさっぱり売れない、値段も安い。なぜ安いか。大阪から京都の方見たら北東になりませんか。だから、北東の方へ行ったダメだという迷信を信じている人がいるから土地が売れず安かったんです。

だから、北東の守りをしっかりとする必要があり、平安京の北東に完璧なバリアを作ったのです。で、石清水八幡宮は、平安京の南西の方に造成されたのですが、これは裏鬼門の防御をするために作ったと言われていきます。徹底した風水、陰陽道による結界を設定した。こうした措置により千年の都が実現したのかどうか、これ謎でありますけど、長く都は京都に置かれておった。ひよっとしたら「風水」の効果があったのかも知れません。これは実証できません。分かりません。

それから、天皇がお住まいになる御所。御所にも結界があるって私も最近まで知らなかったのですが、ここが今出川通でしたっけ、北の方は。ここに御所の今出川通に面した入口があつて、ここに御所があるわけですね。この角、猿が辻という角のところに、ぜひ今度、御所へ行ったら注目してください。どんなものがあるかというところ、こういう形で窪んでいます。これは御所の天皇がお住まいになつてらっしゃる所の北東の角のところを窪ましているのです。これは鬼門対策として窪ましているのと同時に、この上見てください。御幣を持つている何か像がありますね。拡大したのがこれです。ちょっと見えにくいかもしれないけど、これ何か分かりますか。ここにいるもの何か分かりますか。ここに顔があつて、手があつて、足があつて、座つて、お札みたいなの持つて。これ、猿ですよ。



猿の像をこの上に置いています。これで鬼門対策をやっている。その理由はこれ見てください。五行思想ではね、真正面は闘いになると言われているんです。北の方は「子」、南の方は「午」、子は水です。午は火。火と水は合わないですね。ちょうど正面になっているところは闘いになる。この火の力を防ごうと思ったら水でもって抑えるという考え方で、鬼門にあたる北東には「寅」が向うにおつて、寅とか卯は五行になおすと木になるわけですね。ここは申「さる」って読みますよね。この申というのは金、金属。じゃあ、木を抑えようと思つたら金属で切りますよね。だから、鬼門から来る悪いものを防ぐためには金をシボライズした申で防ぐという考え方があつたわけです。ですから、御所へ行ったら、猿が辻で実際に確認してみてください。こういう対応を当時、陰陽五行思想の中でこういう考え方が出てきていたということです。

さて、近現代の京都、こういう伝統の中で京都の都は千年ずっと続いて来たのですが、現代京都のイノベーションっていうのはどんなものなのか。こういう長い伝統の中で、京都の特色っていうのは、ものづくり都市という発想がやっぱりあります。それも何もないところから一挙にものづくりの考え方が出てきたというのではなくて、伝統的な産業、千年も都があつたんですから、伝統産業はずーっと続いている。それが先端産業に転換して

いった特徴を持っているのです、この京都っていう地は。ですから十九世紀から二十世紀への変わり目に、京都ではいろんなベンチャー企業が出てきました。ほとんどが京都大学との連携によって、ベンチャー企業がスピニアウトして大きな企業になっています。例えば堀場製作所、島津製作所もそうです。京セラもそうです。みんな京大との共同研究の中からスピニアウトして、ベンチャー企業から世界的な企業になっています。今、この地域では二十一世紀型の新しい産業を興そうと思つて、京都市も京都府も一生懸命やっています。だから若い人たちには、やっぱりこの地を支えるような新しい産業を興してもらつてということが必要になってくる訳ですね。

ちょうど十年くらい前ですかね、東日本大震災が起こったあの最中、私はイギリスのオックスフォード、ケンブリッジへ基金の調査に行つておりました。オックスフォードの郊外にあるサウス・スパーク、ここも調査をしました。そしたら、オックスフォード大学なんかで研究した留学生たちが、新しい産業のシーズを持って、郊外のサウス・パークでみんな起業します。その新しく起業した企業がその地域の経済を引っ張るといふ構図が出来ていく。だから京都でも、そういう産業を何とか興そうと頑張っているのです。で、イノベーションの町として京都はいろんな工夫をしている。ものづくりを大切にしている。い

ろんな発想の中で人々の幸せとか、社会の安寧・発展を求めて相互に刺激を与え、高めあうような、そういう発想の元で、「感性」「匠の技」「智慧」が継承・創造されるような好循環を何とか作りたいというふうに関都の町の人たちは考えているということなのです。特に京都は大学のまち、学生のみちであります。ここでみなさんは学生生活を送られるっていうことは、この地域のことをしっかりと理解をしておいていただくことが必要だと思います。

ものづくり文化っていうのはね、元々いろいろあった伝統的に。仏具、神具、京焼、清水焼、酒、林業、染物、印刷、織物、京野菜、伝統建築、京町屋、京料理。光華も町屋キヤンパス、富小路キヤンパスを持っております。ぜひ、そこでの授業なんかを体験していただきたいですが、伝統的な産業ですよ、これ。仏具、神具、京焼、清水焼っていうのは。あるいは織物もそうです、西陣織とかありますね。これがどう変わっていったか。こっちの方を見てください。セラミックとかコンデンサというのは、清水焼とか、焼物の技術が近代化の中ではセラミックとかコンデンサ、こんなものになってきたのです。

ここで私書き忘れてしまつて、ある文献を昔読んだことがあつて、さつき先生にも確認させて頂いたので、私、松風（まつかぜ）やと思つていたのですが、あれ松風（しよ

うふう」と読むんですよ。松風と書く歯科材料のトップメーカー、これは京都にあります。このメーカーは人工の歯、あるいは歯を治療する時の材料ですね、こういうものを作っている。なぜそれが京都で発祥したか。京焼物、瀬戸物、セラミック、この技術がこういうものに転化したのです。今、この松風はエジプト地区に、中東アラブ圏に大きく飛躍していると。だから、まだまだ京都発の企業が国際展開していく可能性が大いにあると思います。

それから、お酒。これが何になったか。創薬、バイオ。宝酒造ってありますね。ああいうところは伝統的な伏見のお酒、この技術がいわゆる先端産業としての創薬、バイオに変わってきている。それから、織物は一体何か。意外だったのですが、西陣織のテキスタイルする技術ですね、これが半導体、いわゆるこうやってピッピッピってやっているじゃないですか。あの半導体の製造技術に転化し、京都では村田製作所。世界的なメーカーは西陣織の技術が転化してきた。京野菜はいわゆるバイオ。京の漬物っていうことになっていきますよね。ですから、伝統的なものづくり文化が、セラミック、コンデンサはじめ、こういうものに、新しい先端産業に生まれ変わっている、これがこの町の特徴だと、京都の特徴だということを知ってください。それから、ここに印刷というのがありますが、これ

がここに来ていたんですわ。映画、マンガ、アニメ、ゲーム。花札ってありますでしょ。あの花札をやっていたのが任天堂ですよ。あれが今の時代はゲーム。世界的なトップメーカーになっているじゃないですか。だから、京都では伝統的な産業、これがいち早く先端産業に変わっている。この特徴があるところだということを良く理解してください。

ということ、二十一世紀型のベンチャー企業、みなさんですね、今、光華では色々な研究室で、基幹研究を軸に先端的な研究を先生方にお願ひしてやって頂いています。機能的な食品の開発なんかをやって頂いていて、近々販売する方向にあるのですよね。今その準備をして頂いています。そういう先端的な研究にできる限り参加してもらおう。そういう方向で理事長も了解していただいているので、みなさんも、どんなことでもいいですから、そういう先端的な研究にぜひ関与していただきたい。そして、伝統の中で新しい産業ができてきているという、この地域の特徴ですよ、これを良く理解していただきたいと思えます。

結局、今後ですね、「大学」「産業界」「文化」「芸術」「宗教」「地域」との融合によるところの「まちづくり」が行われているのが、この京都という、この地域の特徴だということとを良く理解して頂きたいと思えます。もちろん自然を非常に大切にします。自然と共生し

て、千年を超えて継続し、創造し、さらに発展していく。こういう発想を持っているのが京都であるということを良く理解してください。

京都府の府北部はね、日本三景、天橋立や世界ジオパークというものがある。中部では芦生の森とか、丹波高地の里地や里山がある。府南部は宇治茶生産の景観がある。これを指して、山田前知事は、京都府の特徴を「海の京都、森の京都、お茶の京都」と言っておられた。京都の地域的な特徴を三つに分けたら、「海の京都、森の京都、お茶の京都」これが京都の特徴だということなのです。

で、長寿企業がどれほど集積しているか。明治維新以前に創業した企業数、出現率とも全国一位ですよ、この地域は。だから企業数としては、京都が三一・二、二位が東京で二八・三、三位が愛知県。新しい長寿企業がどの程度存在しているか。出現率も一・一八%。これはかなり少ないですけども、やっぱり京都府がトップになっているということですから、いろんな伝統を持っている企業もこの地域ではたくさん存在しているということになります。

それから、京都企業の強みはオンリーワン文化です。「京都の人はホンモノ志向で、人のまねをしないでオリジナリティのあるオンリーワン商品が生まれやすい」ということを

堀場製作所の前会長の創業者は言っておられるということだし、志の高い起業家精神を持つている方がたくさんいる。だから、経営初期から海外市場へアプローチしているし、先輩経営者が若手経営者を支援する。次の世代も育成していく特徴を持っているのです、この地域は。ここが京都の特徴なのでしょうね。それから大事なことは、ベンチャーの都、世界的な高い技術を持った企業群があるということ。島津製作所、京セラ、村田製作所、日本電産、ローム、GSユアサ、こういうものがここに存在しているということ、名だたるものが京都で発祥し、こういう企業の特徴はね、全部どうですか、東京へみんな本社を持っていくけど、京都から出ていけない。ずっとここで頑張っているという、こういう特徴を持っています。

それから、京都企業のケーススタディでね、島津製作所がどういう経緯で今の島津製作所になったか。この話もしておきたいと思います。元々は仏具屋さんだったんですよ。京都ですから、お寺がたくさんありますから、仏具を作っていた会社だったのですね。その初代の島津源蔵が仏具屋を生業にしておって、非常に向学心の高い人で、科学研究の拠点の舎密局に出入りしていた。この舎密局っていうのは何か。京都大学の元になった研究所が京都にあったのですよ。ここで教育用の理化学機器の製造を始めて、島津製作所を創業

した。最初にどんなものをやったか。錫製の医療用ブーシー、これは手術の時に針で縫合した後、糸を巻く手術道具ですね。これを最初に製作した。それから熱気球なんかも鳥津製作所が作ったのですよ。だから、金属の加工をするってことは、仏具を作ることと関係していますから、近代化するならば、仏具を製作する技術を、いわゆる医療用道具の製作に応用すれば、ブーシーなんかも製作できるとなるわけですね。それから息子さんも二代目鳥津源蔵を名乗ったのですが、私も知らなかったことなのですが、京都大学の新入生向けの講座に来て頂いておりましたある大学の理事長にご教示頂いた話なのですが、X線装置、これも鳥津が日本で最初に製作したという事らしいです。それが単に作っただけでなく、一八九五年にレントゲンがX線を発見したのですが、レントゲンが発見した翌年に国内初のX線写真の撮影に成功しているのです。すごいことやと思いませんか？ 京都でそんなことが起こっていたのですよ、あの当時。レントゲンがX線を発見したのが一八九五年、商品化して初のX線写真の撮影にもう一年後に成功して、九七年に教育用X線装置を商品化しています。すごいですよ、やっぱり昔の京都人っていうのは。この時はね、第三高等学校、今の京都大学の教養部、今は総合人間学部になっていますが、この元の京都大学の前身の学校の村岡範為馳さんという教授がおられて、この方の所へ弟子入りしてい



ろいろ教えてもらって、こういうものを作ったと。

それから、もっと驚きはね、みなさん、GSユアサって聞かれたことある人、どのくらいいますか？ その葛野大路南に行ったところに工場がありますよね、GSの。私もGSが何かって知らなかったのですが、このGSってというのは、彼のイニシャルなんですよ。島津源藏。Genzo Shimazu のイニシャルでGS。蓄電池も開発しておった。この蓄電池、島津製作所の作った蓄電池が日本を救った。信じられない話ですけどね。日露戦争で島津が開発した蓄電池を軍は徴用した。そして軍艦和泉でこれを使用した。モールス信号、ツーツー、トントンってやつやね。このためのバッテリーとして島津源藏の作った蓄電池を和泉という軍艦に乗せておって、一九〇五年五月二七日の日本海海戦で信濃丸という船から「敵艦見ゆ」と旗艦三笠の東郷平八郎元帥に発信した訳です。昔はリーダーとかですね、偵察衛星なんてない時代ですから、目視して敵艦がどこにおるか、ロシアのバルチック艦隊が対馬に来るのか、津軽海峡から入って来るのか、どっちかということ、当時の明治政府もやきもきしておったのです。ロシアのバルチック艦隊の動向をモールス信号で知らせ、それで日本海海戦で日本が勝利することができた。だから、京都の町で開発された技術が日露戦争で日本が勝利する歴史的な役割を担った。これを京都人は非

常に誇りに思っているようです。ですから、GSユアサは鳥津源蔵のイニシヤルであるということを良く知っておいてください。私も本当に最近まで知らなかったです。

最近ね、この京都は国際的研究の拠点になっています。世界的な研究者が集まっています。例えばノーベル賞日本人受賞者二三名中、一名が京都の大学と企業にいます。だいたいは京都大学ですけども、鳥津製作所の田中さんという方がおられますけどね。それゆえ、多くのグローバル企業が研究開発部門を京都に置いています。たとえばラインの開発拠点とか、パナソニックのデザインセンター等が京都に置かれています。これはね、京都の求心力、京都に本社を置く理由は何か。京都に国際的な知名度があるからなのです。国際的に京都は通じます。私は、先日駆け足で米国防って来ましたが、何とか国際交流を進めようと思って、米国の大学を尋ねていろいろ話しました。ホテルのチェックインの時、住所は「奈良」と言ったら、ホテルの人は「奈良へは行ったことがある」という発言があり、ホテルの人は知っているのですね。もちろん京都は知っています。大学の人に「奈良」と言っても、「どこ？」って感じでしたね。「京都」と言ったらみんな知っています。国際的に京都は良く通用するブランドなのです。世界市場を狙うには、京都に本社を持つてくるのがベストなのです。私たちの大学は京都にありますよね。京都光華、京

都が付いています。これは世界的なブランドなのです。プライド持つてください。絶対世界的に *Kyoto Koka Woman's University* は、米国に行っても京都にある大学だとすぐ分かります。だから私たちは、そこに自信を持って、今後国際展開を進めます。だから皆さんもやっぱり国際的に活躍するようになって欲しいです。これからの時代は、女性に活躍して頂くことが求められています。まあそのためには入学式の時に言いましたけど、やっぱり英語頑張ってください。光華の英語の教育は、リセットしてもう一度ゼロから出発して四年間で頑張れば英語の力を付けるような仕組みがきちつとありますから、それを信じて頑張ってください。

知の集積 産学公連携の取り組みが色々あり、この京都には三八の大学・短期大学があります。約一五万人の学生がここで学んでおります。世界中から約一万人の留学生が来ております。光華も積極的に留学生を誘致する展開をこれからどんどん進めて行きたいと考えております。

ノーベル賞、最近では山中先生、本庶先生ですね。直近ではこの二人が取られたのですが、課題は何か。二一世紀型のベンチャー企業がなかなか出てこない。京大の学生は、なかなかベンチャー企業を立ち上げるリスクを取らない。だけどどうしても京都府とか京都

市は、やっぱり京都に来てくれた学生さんに、自分で起業して欲しいと考えている。光華の学生さんにも、女性らしい感性をもった起業家として京都で新しい仕事を始めて頂くことを期待しています。特に入学式の時に言いましたっけ、フェムテック (Fem Tech) という言葉、知っている人どのくらいいますか？ 聞いたことある人。聞いたことない？

これは「Female + Technology」から出来ている言葉で、女性の色々な身体上の悩みとか、女性が困っていることをテクノロジーで解決する分野、これが今急拡大しています。後二年で五兆円の市場になると言われています。女性だからこそ、そういうところで起業してもらうことは非常に大事なことであり、京都府の山下副知事が、私は昔から良く知ってる人ですが、「ぜひフェムテックの研究会に来てください」との招聘がありました。今度、大山崎に交流センターが新しくできます。それは、「アート&テクノロジー・ヴィレッジ」と言われておりますが、そこに女性の感性をぜひ入れて欲しい、様々な企業が集積するから、光華の女子大生に来てもらって、そこでインターンシップ等を経験して欲しいとの要望が提起されております。

これからです、やっぱり女性にさらに社会進出してもらって、女性らしい感性の中で新しい産業分野の創出が重要となってくるということですし、京都府も京都市も皆さん

にすごく期待しています。国家資格を取得し、資格を活かした分野で活躍される方もいらっしゃると思いますけれども、他方産業分野で地域の振興のために今後頑張って頂くといいことも重要です。今日の話の中からその重要性を汲み取っていただければ有難いです。

七九四年の平安京遷都以降、千年以上に都が続いているんな伝統が育まれ、そしていろんな産業、ものづくり文化が生まれて来た。それが先進的な近代産業に生まれ変わっている。これがこの地の特徴であり、私たちとしてはそういうところで活躍できる可能性が大いにあるはずなのです。ですから、また地域との交流、地域の振興のために若い皆さんの力添えがどうしても必要ですし、大学としても地域に根差したいろんなプロジェクト、これを進めて行きたいと考えております。興味のある方はぜひ参加して頂きたいと思っております。

あまり宗教に関わる話ができませんが、地域交流・地域貢献・産学公連携に関わる学問分野の内実に興味を持って頂けたのなら幸いです。

どうもご静聴ありがとうございました。今日の話は以上でございます。